長内・大塚（1967），研究報告から長内さんを偲ぶ

安藤　大成

長内さんが水産孵化場を退職されたのは昭和62年、私が新人として入ったのが平成9年のことですから、私と長内さんには直接の面識はありません。このような追悼寄稿を書かせていただくこと自体、大変恐縮に感じております。しかし、今回、「研究報告は人を繋ぐ」ということをお知らせしたく寄稿させて頂きました。

長内さんが大塚三津男さんと書かれた長内・大塚（1967）、「サクラマスの生態に関する研究 I、溯河サクラマスの形態と産卵生態について」という報文は私の研究にとって非常に重要な内容が書かれており、これまで何度も読ませて頂き、また私が論文を書いた際にも数回引用させて頂きました。この報文には、サクラマス親魚の体サイズ、産卵床のサイズや水温、当時の河川水温などが詳細に載っており、サクラマスの生態を研究する際のお手本にされた諸兄が多々いるのではないかと思われます。1964～1966年にかけて、全道の8河川からサクラマス親魚の測定データを得ており、当時の交通事情や情報の少なさを考えると大変なご苦労があっただろうことは想像に難くありません。その中でも私がもっとも興味を引いたのが、サクラマスの形態学的特徴が記されていたことでした。

私は現在、さけますの計数形質（鰭条数や脊椎骨数などの計数できる形質）の変異を調べる研究をしていることもあり、1960年代の測定データというのは50年近く経った現在との比較の上で、非常に貴重なものでした。その後、当場の試験課題で日本海側に生息するサクラマスの計数形質を調べる機会があり、既往の文献を調べていたところ、脊椎骨数に関してある疑問が生じました。計数形質は1990年代にも当時、北海道大学の真野修一さん（現在は当場の職員です）らが調べており、その報告（真野ら1991）と長内・大塚さんが報告した値にズレが生じていたのです（図1）。長内・大塚さんが書かれた研究報告には脊椎骨数のどこまでを計数したのかが書かれておらず、私はデータの解釈に迷いました。この当時、さけます類の脊椎骨数の計測は、久保・小林（1953）に従うことが多かったようで、長内・大塚さんの報告もそれに従ったのかとも思いましたが、確信は得られませんでした。ご本人に直接聞いてみたいとは思ったのですが、面識もなく連絡先も知らない状況です。そんな折、当時、さけます資源部の部長であった杉若圭一さんが、長内さんのご住所を知っているとのことで、早速、手紙を書いてみました。平成19年4月頃だったと思います。手紙には、私のやっている研究内容の紹介の他、長内さんが当時、計数していた脊椎骨数は久保・小林（1953）の論文を参考にしたものではなかったでしょうか？という内容を書いて、長内・大塚（1967）と

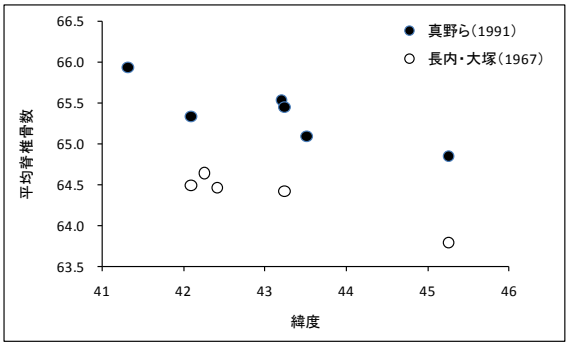

図1　長内・大塚（1967）と真野ら（1991）を改変

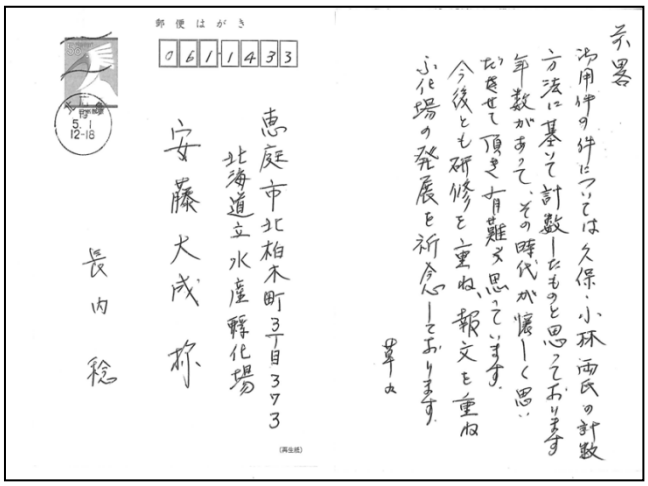

図2　長内さんから頂いたはがき。平成19年5月1日の消印となっている

久保・小林（1953）の報文を同封したかと思います。

返事はすぐ来ました。昨今のワープロや電子メイルなどではなく、はがきに丁寧な文字で書かれており、私は返事をもらえたこと自体に感激しました。自分が逆の立場になったら、このような些細なことで返事を書いていたでしょうか・・・。

葉書には久保・小林両氏の計数方法に基づいて計数したものと思っております、と書かれておりました。長内さんにしても大分前の仕事だったのでしょう。その時代が懐かしく思い出させて頂き有り難く思っています、と書かれております。最後に、「今後とも研修を重ね、報文を重ね、ふ化場の発展を祈念しております」と結ばれておりました。これは私には大変重い言葉です。長内さんから葉書を頂いてから、既に4年が経過しようとしておりますが、未だ研修と報文を重ねることができない自分を恥じるばかりです。

長内さんの書かれた研究報告は私を含めた後輩たちに教科書のようになって受け継がれております。貴重な情報が詰まった報告ですので、これからも多々引用されて、長内さんの名前もたびたび論文に登場するのではないでしょうか。

冒頭にも述べましたように、私は長内さんとは直接の面識はありませんでしたが、長内さんの書かれた研究報告を読むことで勉強させて頂き、ご本人にも連絡を取ることができました。研究報告というものはその当時の知見を記録することはもちろんですが、見ず知らずの研究者を繋ぐ重要なツールであるとも認識させられました。長内さんも研究報告を残すことの重要性を分かっていたからこそ、葉書に「報文を重ね…」という言葉を書かれたのでは…と感じております。

最後になりましたが、長内さんのご冥福を心よりお祈りいたします。

引用文献

長内稔・大塚三津男（1967）．サクラマスの生態に関する研究Ⅰ．遡河サクラマスの形態と産卵生態について．北海道立水産孵化場研究報告，22：17-32.

真野修一・管野泰次・木下哲一郎・前田辰昭・久保健一郎（1991）．北海道の日本海岸河川に分布するサクラマスの生態的特徴と計数形質の変異北海道大学水産学部彙報，　42：147-159.

久保達郎・小林哲夫(1953)．石狩川のサケの二三の魚群と脊椎骨数及びウロコの数について．日本水産学会誌，19：297-302.

（あんどう　だいせい：研究主任）